

第3学年 単元別学習内容一覧

上巻

◎ わくわく算数学習			
小単元	時	ページ	学習内容
(課題設定)	1	6~9	○100を単位にした(何百)+(何百)や(千何百)-(何百)の計算の仕方を考える学習を通して、自分で考えるときの方法や説明の仕方、話し合いのやり方等算数学習の進め方を知る。 ○自分で考え、みんなで話し合う算数学習の進め方のよさに気づく。

1 九九の表とかけ算

目 標				指導時数・時期
○ 10や0のかけ算について、その意味や計算の仕方を考えたり説明したりすることを通して、かけ算の理解を深めるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。				5時間 2学期制：4月上旬～4月中旬 3学期制：4月上旬～4月中旬
(知) ・10のかけ算、0のかけ算の意味を理解でき、その計算ができる。 (思) ・かけ算のきまりを用いて、10や0のかけ算の仕組みなどを考えることができる。 (態) ・九九の表からきまりをみつけ、それを進んで計算に用いようとする。				
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース
じゅんび	—	134	・2年「九九のきまり」	○既習事項の理解を確かめる。
(課題設定)	1	10	・九九と九九の表についてふり返る。	○九九の表を使った数あてゲームを通して、単元の課題をつかむ。 【態度】 ○かくれた数のみつけ方を説明する活動を通して、かける数と積の関係を見いだしまくる。【思判表】
		11		
	2	12	・問3の①や問4の①で、計算の仕方を確認する。(その他の小問題は、次時の冒頭で前時の確認問題として扱うことも可)	○かけ算の意味やきまりに着目して、(1位数)×10や10×(1位数)の答えを求める。【思判表】 ○10をかける計算をする。【知・技】
	3	13	・問1では、まず、0のかけ算も他の整数と同じように表してよいことをおさえる。 ・問8の①や問9の①で、計算の仕方を確認する。(その他の小問題は、次時の冒頭で前時の確認問題として扱うことも可)	○かけ算の意味やきまりに着目して、(1位数)×0や0×(1位数)の答えを求める。【思判表】 ○0をかける計算をする。【知・技】
	4	14~15		○かけ算のきまりを使って、□を使って表された $6 \times \square = 24$ や $\square \times 7 = 21$ の□にあてはまる数を求める。【態度】
学びのまとめ	5	16~18	・たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	★コラム「昔の九九の表」に触れ、だいちやひなたの気づきをもとに理由や方法を考える。 ★もっと練習 p.138 に進む。 ★やってみよう取り組む。

2わり算

目 標				指導時数・時期
○わり算について、その計算の意味や仕方を考えたり説明したりすることを通して、わり算の意味やよさを理解するとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。				10時間 2学期制：4月中旬～5月上旬 3学期制：4月中旬～5月上旬
(知) ・等分除や包含除の意味を理解し、除法の適用場面を式に表して、九九を用いて答えを求めることができる。 ・答えが九九にないわり算の答えを求めることができる。				
(思) ・わり算の計算の仕方を考え、説明することができる。				
(態) ・同じ数ずつに分ける計算のよさに気づき、わり算を日常生活上の問題の処理に役立てようとする。				
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース
じゅんび	—	134	・3年「九九の表とかけ算」	○既習事項の理解を確かめる。
(課題設定)	1	20	★問2でも、操作によって答えをみつけさせる。	○12個のいちごを3人で同じ数ずつ分ける場面で、数図ブロックの操作を通して等分除の意味を理解し、除法の式に表す。【知・技】 ○わり算について調べていくという単元の課題をつかむ。【態度】
①分け方とわり算		21~22		
	2	23	・問3では、まず、数図ブロックを操作して答えを見つけさせる。そして、「全部の数」「1人分の数」「人数」を明らかにした上で、かけ算を使った答えの求め方に進む。	○24個のあめを3人で同じ数ずつ分ける場面で、わり算がかけ算の逆演算であることをもとに、等分除の答えの求め方を考える。 【思判表】

	3	24~25	・問3では、まず、数図ブロックを操作して答えを見つけさせる。そして、「全部の数」「1人分の数」「人数」を明らかにした上で、かけ算を使った答えの求め方に進む。	○12個のあめを3個ずつ分ける場面で、数図ブロックの操作を通して包含除の意味を理解し、除法の式に表して答えを求める。 【知・技】	★問1では、結果の見通しを立てて操作する。 ★もっと練習 p.138 に進む。
	4	26	・問1では、まず、数図ブロックを操作して場面の違いをとらえさせる。	○15÷3になる等分除の問題と包含除の問題を比較して、わり算を統合的にとらえる。【思判表】	★もっと練習 p.139 に進む。
	5	27	・問2では、かけ算のときを参考にして、まず、身のまわりから「全部の数」「1つ分の数」「いくつ分」を見つけさせる。次に、問1の問題カードを参考にして、「1つ分の数」を問うか「いくつ分」を問うかを決めさせる。	○12÷3になる問題づくりを通して、わり算の理解を深める。 【態度】	★問2では、1つの場面から等分除と包含除の両方の問題をつくらせる。
●練習 ②わり算を使った問題	6	28		○学習内容を確実に身につける。	
③答えが九九にないわり算	7	29	・問1では、いちごがのっている皿が何枚かと、いちごがのっていない皿が4枚あることをとらえさせて、取り組ませる。	○30個のいちごを5個ずつお皿にのせてお皿が4枚余ったとき、お皿が全部何枚あるかを求める。 【思判表】	★似たような問題をつくり、解きあう。 ★もっと練習 p.139 に進む。
学びのまとめ	8	30	・問2の①④で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、次時の冒頭で前時の確認問題として扱うこと也可)	○何十や0をわる、答えが九九にないわり算の計算の仕方を、わり算がかけ算の逆演算であることをもとに考え説明する。【思判表】 ○10や0のわり算をする。 【知・技】	★0でわるとどうなるかを気にしている児童がいれば、p.26の学習に立ち返り、 $15 \div 0 = \square$ とするとき $15 = \square \times 0$ ($15 = 0 \times \square$)となり、□に何をあてはめても $\square \times 0$ は0で15にはならないことから、0でわることはできないことを知らせる。 ★もっと練習 p.139 に進む。
	9	31	・問1や問3では、お金の模型を操作して考えさせる。 ・問2の①や問4の①で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、次時の冒頭で前時の確認問題として扱うこと也可)	○(2位数)÷(1位数)=(2位数)の計算の仕方を、数の相対的な見方を活用して考え説明する。 【思判表】	★もっと練習 p.140 に進む。
	10	32~33	・たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容を振り返らせる。	○学習内容の理解を確認する。 【知・技】たしかめよう問1・問2 【思判表】たしかめよう問3 【態度】ふりかえろう	★やってみよう取り組む。

思 図を使って考え方				
目 標				指導時数・時期
○ 文章題において、問題場面を線分図に表して解法を考えることを通して、順思考と逆思考を組み合わせた3要素2段階の問題を解くことができるようになるとともに、用いた図や見方・考え方を生活や学習に活用しようとする態度を養う。				2時間 2学期制：5月中旬 3学期制：5月中旬
(知) ・線分図による数量の関係の表し方がわかり、順思考と逆思考を組み合わせた3要素2段階の問題を解くことができる。				
(思) ・順思考と逆思考を組み合わせた3要素2段階の問題の解決の方法が説明できる。				
(態) ・図を使って意欲的に問題解決にあたろうとする。				
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース
	1	34~35	・問題文の数量と1つ1つ対応させながら、ていねいに段階をとって線分図をかかせる。わからない数は□とすることをおさえる。	○はとが飛んでいく場面で、数量の関係を図に表して、減減の場面のはじめの数を求める。【思判表】
	2	36~37	・問題文をよんで、まず、わからない数が何かを確認して、それを□とすることをおさえる。 ・問題文の数量と1つ1つ対応させながら、ていねいに段階をとってテープ図をかかせる。 ・問2では、必要に応じて線分図のかき方を支援する。	○買い物場面で、数量の関係を図に表して、増増の場面のはじめの数を求める。【思判表】

3 たし算とひき算の筆算				
目標				指導時数・時期
<p>○ (3位数)±(3位数), 簡単な(4位数)±(4位数)の筆算について, その仕方を考えたり説明したりすることを通して, 繰り上がりや繰り下がりに気をつけて正しく筆算で計算できるようにするとともに, 生活や学習に活用しようとする態度を養う。</p>				9時間 2学期制: 5月中旬~5月下旬 3学期制: 5月中旬~5月下旬
評価				
(知) ・繰り上がりや繰り下がりの処理を通して, 十進位取り記数法の理解を深め, (3位数)±(3位数)や簡単な(4位数)±(4位数)の筆算を, 繰り上がりや繰り下がりに気をつけて正しく筆算で計算することができる。 (思) ・既習の2位数の計算の仕方をもとに, (3, 4位数)±(3, 4位数)の筆算の仕方を考えることができる。 (態) ・筆算のよさがわかり, 進んで活用しようとする。				
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース
じゅんび	—	134	・2年「たし算とひき算のひつ算」	○既習事項の理解を確かめる。
(課題設定)	1	38	・導入で, 38+56の筆算の仕方を確認する。 ・問2の①で, 計算の仕方を確認する。(その他の小問は, 本時では省き, 第7時で扱うこと也可) ※繰り上がりの数を書く場合のかき方は, 学年で統一しておく。	○既習の2位数の筆算の仕方をもとに, 3位数の筆算の仕方を考えていくという单元の課題をつかむ。 【態度】 ○(3位数)+(3位数)で繰り上がりが1回の筆算をする。【知・技】 ※繰り上がりの数を書く場合のかき方は, 学年で統一しておく。
①たし算の筆算	2	39	・問5の①や問6の①③で, 計算の仕方を確認する。(その他の小問は, 本時では省き, 第7時で扱うこと也可)	○(3位数)+(3位数)で2回繰り上がりがある筆算の仕方を考え説明する。【思判表】
	3	40	・問9の①③や問10の①③で, 計算の仕方を確認する。(その他の小問は, 本時では省き, 第7時で扱うこと也可)	○(3位数)+(3位数)で和が4桁になる筆算をする。【知・技】
②ひき算の筆算	4	41	・問1の前に, 32-18の筆算の仕方を確認する。 ・問3の①や問4の①③で, 計算の仕方を確認する。(その他の小問は, 本時では省き, 第7時で扱うこと也可) ※繰り下がりの数を書く場合のかき方は, 学年で統一しておく。	○(3位数)-(3位数)で繰り下がりが1回の筆算をする。【知・技】 ※繰り下がりの数を書く場合のかき方は, 学年で統一しておく。
	5	42~43	・問7の①で, 計算の仕方を確認する。(その他の小問は, 本時では省き, 第7時で扱うこと也可) ・たしかめの方法を確認しておく。	○(3位数)-(3位数)で2回繰り下がりがある筆算の仕方を考え説明する。【思判表】
	6	44	・問10の①や問11の①④で, 計算の仕方を確認する。(その他の小問は, 本時では省き, 第7時で扱うこと也可)	○(3位数)-(3位数)で, 繰り下がりが上位2桁に及ぶ筆算をする。【知・技】
●練習	7	45		○学習内容を確実に身につける。
③4けたの数の筆算	8	46		○3位数の筆算の仕方をもとにし, (4位数)±(4位数)の筆算の仕方を考える。【態度】
学びのまとめ	9	47	・たしかめようの自己評価に基づき, 理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。 【知・技】たしかめよう問1・問3 【思判表】たしかめよう問2 【態度】ふりかえろう
	48~49			★もっと練習 p.140に進む。 ※繰り上がりの数を書く場合のかき方は, 学年で統一しておく。
				★もっと練習 p.141に進む。 ※繰り下がりの数を書く場合のかき方は, 学年で統一しておく。
				★もっと練習 p.142に進む。
				★問3で, いろいろな計算問題や文章問題をつくり, 解きあう。
				★×ってみよう取り組む。

* ふく習

小単元	時	ページ	学習内容
	1	50~51	○既習事項の確認と持続

4 時こくと時間

4 時こくと時間				
目標				指導時数・時期
<p>○ 時刻と時間について, 秒の意味を理解し, いろいろな時間や時刻の求め方を考えたり説明したりすることを通して, 時刻と時間についての理解を深めるとともに, 生活や学習に活用しようとする態度を養う。</p>				4時間 2学期制: 5月下旬~6月上旬 3学期制: 5月下旬~6月上旬
(知) ・時刻や時間の求め方や秒について理解し, 必要な時刻や時間を計算によって求めたり, 秒の単位を用いて測定したりすることができる。 (思) ・時間の仕組みをもとに, 時刻や時間の計算の仕方を考える。 (態) ・時刻や時間の計算のよさや秒に関心をもち, 進んで身のまわりの時間の計算をしようとする。				
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース
じゅんび	—	135	・2年「時こくと時間」	○既習事項の理解を確かめる。

(課題設定)	1	52	・導入で、時計のよみ方、午前や午後の意味を確認する。 ・時計の模型を活用して学習を進める。	○町探検の計画をたてる話しあいを通して、単元の課題をつかむ。 【態度】 ○ちょうどどの時刻や正午の区切りに着目し、何分か後の時刻や時間を求める。【思判表】	★時間を見る問題をつくり、解きあう。 ★もっと練習 p.142 に進む。
	2	54	・時計の模型を活用して学習を進める。	○ちょうどどの時刻の区切りに着目し、何分か前の時刻を求める。 【思判表】 ○1 時間=60 分を用いて、時間と分を言い換える。【知・技】	★時刻を見る問題をつくり、解きあう。 ★もっと練習 p.142 に進む。
	3	55		○1分よりも短い時間の単位「秒」について理解する。【知・技】 ○秒で表される時間について調べる。【態度】	★身のまわりから、秒の単位が使われている場面を見つける。
学びのまとめ	4	56~57	・たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。 【知・技】たしかめよう問1~問3 【思判表】たしかめよう問4 【態度】ふりかえろう	★やってみよう取り組む。

5 一万をこえる数

目標

○ 一万をこえる数について、既習の数の表し方にもとづいてその仕組みを考えたり説明したりすることを通して、数の大きさや十進位取り記数法についての理解を深めるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。

(知) ・一億までの数の仕組み、よみ方、かき方が理解できる。

・数の仕組みに着目して、一億までの数をよんだりかいだりできる。

(思) ・一万の位までの位取りと同じ仕組みで一億の位までの仕組みを説明できる。

・万の位までの数の相対的な見方に基づく加減計算の仕方を考える。

(態) ・一億までの数の仕組みについて関心を持ち、位取り記数法のよさがわかる。

指導時数・時期

12 時間
2 学期制：6月上旬～6月下旬
3 学期制：6月上旬～6月下旬

小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんび	—	135	・2年「1000をこえる数」	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	58	・問1では、1000が10個で一万であることや、一万が2個で二万、一万が3個で三万、一万が4個で四万、…、一万が9個で九万ということを確認する。	○マラソン大会の記録証の用紙が一万をこえることから、一万より大きい数について調べていくという単元の課題をつかむ。【態度】 ○一万をこえる大きな数について、よみ方、かき方、仕組みを理解する。【知・技】	★もっと練習 p.143 に進む。
①万の位		59~60	・問3と問4では、答えや問題の数字のよみ方を確認する。位取り板を用いてもよい。	○一万をこえる大きさを確認する。【思判表】	
	2	61	・問7では、答えの数字のよみ方を確認する。位取り板を用いてもよい。	○山梨県や埼玉県、東京都の人口について調べた場面で、千万の位までの数のよみ方、かき方を理解する。【知・技】	★もっと練習 p.143 に進む。
	3	62	・問1では、まず、10個分は10倍とも表現できることを確認する。	○水族館の入館者数について調べた場面で、数の仕組みについて理解を深め、一億という数についてくる。【知・技】 ○7000万や270万について、一万を単位とした数の相対的な見方でとらえる。【思判表】	★7000万や270万について、1万を基準にした見方だけではなく、10万を何こ集めた数か、1000を何こ集めた数か、100を何こ集めた数か、10を何こ集めた数か、なども考える。 ★もっと練習 p.143 に進む。
	4	63		○日本の小中高の児童数の合計について調べた場面で、一万までの数の仕組みをもとに、千万までの数の仕組みを考える。【思判表】	★いろいろな数字をつくり、数の構成を考える。 ★もっと練習 p.143 に進む。
	5	64	・位取り板を使って考えさせる。	○一億までの数の大小を比較する。【知・技】	★いろいろな数字をつくり、大きさを比べる問題をつくりて解きあう。 ★もっと練習 p.144 に進む。
	6	65	・1目盛りの大きさを確認してから取り組ませる。	○万の位までの数について、数直線上に数を表したり、数直線上の数をよんだりする。【知・技】	★問5のような問題をつくり、解きあう。
	7	66	・お金の模型を使って考えさせる。 ・問3の①③や問4の①④で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、本時では省き、第11時で扱うこと也可)	○数の相対的な大きさの見方をもとに、万の位までの数の加減計算の仕方を考える。【思判表】	★もっと練習 p.144 に進む。 ★もっと練習 p.144 に進む。

②10倍した数、10で割った数	8	67	<ul style="list-style-type: none"> お金の模型や位取り板を使って考えさせる。 問2の①で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、本時では省き、第11時で扱うこと也可) 	<ul style="list-style-type: none"> ○20や25を10倍した数について考える。【思判表】 ○10倍したときの数の仕組みを理解する。【知・技】 	★もっと練習 p.145 に進む。
	9	68~69	<ul style="list-style-type: none"> お金の模型や位取り板を使って考えさせる。 問3の①や問4の①で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、本時では省き、第11時で扱うこと也可) 	<ul style="list-style-type: none"> ○25を100倍や1000倍した数について考える。【思判表】 ○100倍(10の10倍)、1000倍(100の10倍)したときの数の仕組みを理解する。【知・技】 	★もっと練習 p.145 に進む。
	10	70~71	<ul style="list-style-type: none"> お金の模型や位取り板を使って考えさせる。 問2の①で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、本時では省き、第11時で扱うこと也可) 	<ul style="list-style-type: none"> ○50や250を10でわった数について考える。【思判表】 ○10でわったときの数の仕組みを理解する。【知・技】 	★もっと練習 p.145 に進む。 ★コラム「身のまわりの一万をこえる数」を紹介し、新聞や社会の本などから一万をこえる数を見つける。

6 表とグラフ					
目標				指導時数・時期	
<ul style="list-style-type: none"> ○身のまわりの事象について、表や棒グラフを用いたデータの分類・整理の仕方を理解し、それをもとに事象の特徴を考察したり説明したりすることを通して、統計的に問題解決する素地を育むとともにその方法を生活や学習に活用しようとする態度を養う。 				9時間	
<p>(知)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表やグラフをみて、資料のもつ意味が理解できる。また、資料を表やグラフに表すことができる。 <p>(思)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・与えられた資料に対して、どのような表やグラフで表すのが適切であるかが判断できる。 <p>(態)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表やグラフに整理することにより資料がわかりやすくなることを知り、進んで使おうとする。 				2学期制：6月下旬～7月上旬	
				3学期制：6月下旬～7月上旬	
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんび	—	136	・2年「ひょうとグラフ」	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	74	・導入では、2年生のときに表や●グラフについて学習したことを確認する。	○好きな遊び調べを通して、表やグラフを使って整理するという単元の課題をつかむ。【態度】	★好きな遊び以外についても、学級の興味・関心に応じて調べて、表に整理する。(p.78で扱う好きな給食調べなど)
①表づくり		75		○数を「正」の字で表し、簡単な表に整理する。【知・技】	
②ぼうグラフ	2	76~77		○好きな遊び調べの結果を表した棒グラフから、情報をよみとる。【思判表】	★もっと練習 p.145 に進む。
	3	78~79	・問1では、まず、正の字から表をつくらせる。そして、表とグラフを比較して、1目盛りの大きさや「その他」の項目について気づかせる。	○1目盛りの大きさが1でない棒グラフや横型の棒グラフから、情報をよみとる。【思判表】	★問1で、2組の棒グラフを完成させたら、p.76の1組の棒グラフと比較させる。
	4	80~81		○1目盛りが1の棒グラフをかく。【知・技】	★問4では、統計グラフの作品を紹介するなどして棒グラフがどのように使われているかを話しあい、学級の興味・関心に応じた調べ学習を行って棒グラフに整理する。
	5	82~83		○目的にあわせて1目盛りの大きさを考え、棒グラフをかく。【思判表】	
				○身のまわりから棒グラフを見つける。【態度】	
③くふうした表やぼうグラフ	6	84		○一次元の表を組み合わせた二次元の表の見方について理解する。【思判表】	★身のまわりの事象をみつけ、二次元表にまとめる。
	7	85		○複数の棒グラフを組み合わせたグラフから、情報をよみとる。【知・技】	★学級の興味・関心に応じて調べたことを、工夫して棒グラフに整理する。
				○工夫されたグラフのよさがわかる。【思判表】	
④ぼうグラフを使って	8	86~87		○目盛りの付け方の違いに着目して、2つの棒グラフを比較する。【態度】	★身のまわりで使われている棒グラフをみて、どんなことがわかるかを話しあう。
				○目的にあった目盛りの付け方について考える。【思判表】	
学びのまとめ	9	88~89	・たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。【知・技】たしかめよう問1・問2 【思判表】たしかめよう問3 【態度】ふりかえろう	★やってみよう取り組む。

7 たし算とひき算

目 標					指導時数・時期
○ (2位数)±(2位数)の計算について、繰り上がりや繰り下がりに着目して計算の仕方を考えたり説明したりすることを通して、暗算で計算できるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。					4時間 2学期制：7月上旬 3学期制：7月上旬～7月中旬
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
	1 ・ 2	90	・念頭だけで処理することが難しい場合は、上の位から順に計算した結果をノートにかかせていく。 ・問2の①③や問4の①で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、本時では省くことも可)	○繰り上がりの有無を意識して、(2位数)+(2位数)の暗算をする。 【知・技】	★暗算の問題をつくらせて、取り組む。
	3 ・ 4	91	・念頭だけで処理することが難しい場合は、上の位から順に計算した結果をノートにかかせていく。 ・問6の①③や問8の①で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、本時では省くことも可)	○繰り下がりの有無を意識して、(2位数)-(2位数)の暗算をする。 【知・技】	★暗算の問題をつくらせて、取り組む。

活 わくわく算数ひろば

小単元	時	ページ	学習内容
●どんな計算になるのかな	1	92～93	○根拠にもとづいて、かけ算やわり算の演算決定をすることができる。
●算数の自由研究	2	94～95	○「迷路づくり」といった自由研究に取り組み、見通しをもって考える力や粘り強く取り組む態度を伸ばす。

* ふく習

小単元	時	ページ	学習内容
	1	96～97	○既習事項の確認と持続

8 長さ

目 標					指導時数・時期
○ 長さについて、巻尺の使い方やkmの単位を理解し、測定する活動を通して長さの測定や計算、単位を適切に用いて表現することができるようになるとともに、量感を身につけて生活や学習に活用しようとする態度を養う。					5時間 2学期制：7月中旬～7月下旬 3学期制：9月上旬
(知) ・長さの単位「km」について知る。巻尺の仕組みや使い方がわかる。 (思) ・長さの単位に着目し、長さの計算の仕方を考えることができる。 (態) ・計器のよさに関心をもち、身のまわりの長さを測定しようとする。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんび	—	136	・2年「長さ」「100cmをこえる長さ」	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	98 99	・導入では、長さの単位にcmやmがあったことや、ものさしとその使い方について確認する。	○長さを測る計器について調べ、長いものの長さの測り方や表し方を調べるという単元の課題をつかむ。【態度】 ○長さの見当づけを行い、巻尺を使ってはかる。【知・技】	
	2	100		○長さの単位kmについて知り、kmを使って道のりなどの長さを表す。【知・技】	★もっと練習 p.146 に進む。
	3	101		○単位に着目して1km500mと600mの加減計算の仕方を考えたり、長さの計算の問題をつくり直す【思判表】	★問7では、つくった問題を解きあう。
	4	102	※問2では、距離測定器やスマートフォンアプリを使ってよい。	○時間と関連づけて道のりの量感をつかみ、道のりを見当づけたり測定したりする。【態度】 ○量感をもとに、適切に単位を選択する。【知・技】 ※問2では、距離測定器やスマートフォンアプリを使ってよい。	※問2では、距離測定器やスマートフォンアプリを使ってよい。
学びのまとめ	5	103	・たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。 【知・技】たしかめよう問1・問2 【思判表】たしかめよう問3 【態度】ふりかえろう	

9 あまりのあるわり算

目標					指導時数・時期	
○ 余りのあるわり算について、余りの意味やその計算の仕方を理解し、わる数と余りの大きさの関係をとらえたり、場面に応じて余りを処理したりできるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。	(知)	・余りのあるわり算の計算の仕方がわかり、その計算ができる。また、場面に応じて余りを的確に処理することができる。	(思)	・わり算の意味にもとづいて、余りのあるわり算の求め方を考えることができる。また、わる数と余りの大きさの関係をとらえることができる。	(態)	・余りのあるわり算の問題に進んで取り組もうとする。
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース	
じゅんび	—	137	・3年「わり算」	○既習事項の理解を確かめる。		
(課題設定)	1	104	・導入では、 $12 \div 3$ の意味や答えの求め方を確認する。	○チョコレート 12 個とあめ 13 個を 3 個ずつ分ける場面で、わり切れないわり算について調べるという単元の課題をつかむ。【態度】 ○包含除でわり切れないときに、商と余りを求める。【知・技】		
①あまりのあるわり算のしかた		105~106				
	2	107		○わり算の意味に着目し、余りはいつもわる数より小さくなることを見いだす。【思判表】	★もっと練習 p.146 に進む。	
	3	108	・問4の①で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、本時では省き、第5時で扱うこと也可)	○等分除で余りのあるわり算の意味を理解し、計算や適用題を解く。【知・技】	★もっと練習 p.146 に進む。	
	4	109		○わり算の操作や計算の仕方をもとに、余りのあるわり算の答えの確かめ方を考える。【態度】	★もっと練習 p.146 に進む。	
●練習	5	110		○学習内容を確実に身につける。		
②あまりを考えて	6	111	・絵や図をもとにしたり、実際に活動したりして、題意をつかませる。	○35人が4人ずつ長い間に座る場面で、全員が座るのに必要な長いすの数を、余りを切り上げて求める。【思判表】	★もっと練習 p.147 に進む。	
	7	112	・絵や図をもとにしたり、実際に活動したりして、題意をつかませる。	○幅 30cm の本棚に厚さ 4cm の本を何冊立てられるかを、余りを切り捨てる。【思判表】	★もっと練習 p.147 に進む。 ★コラム「あまりの数を使って」の剩余類の問題に取り組んでみる。	
学びのまとめ	8	113~115	・たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。 【知・技】たしかめよう問1・問2 【思判表】たしかめよう問3 【態度】ふりかえろう	★やってみよう取り組む。	

10 重さ

目標					指導時数・時期	
○ ものの重さについて、その比べ方や普遍単位の必要性を理解し、測定する活動を通して秤で重さをはかることや単位を適切に用いて表現することができるようになるとともに、量感を身につけて生活や学習に活用しようとする態度を養う。	(知)	・重さの単位とその相互の関係を理解し、重さを適切な秤で測ることができる。 ・重さの加減計算ができる。	(思)	・長さやかさと同様に、重さの数値化の方法を考えることができる。 ・単位の関係を統合的に考察することができる。	(態)	・秤を使うことによって物の重さが正確に測れることを知り、いろいろなものの重さを単位や計器を選んで適切に測ろうとする。
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース	
じゅんび	—	137	・2年「100をこえる数」	○既習事項の理解を確かめる。		
(課題設定)	1	116		○直接比較による導入で、重さについて調べるという単元の課題をつかむ。【態度】		
①重さの表し方		117		○任意単位(1円玉)による測定を通して重さの単位 gについて知り、gを使って重さを表す。【知・技】	★長さやかさを想起させ、大きさの違いを数で表すとよいという見通しを持つ。	
	2	118~119	・目盛りの読み取りが困難な児童には、秤の目盛りを数直線に表したもの用意する。	○秤を使って、1000gより軽いいろいろなものの重さを測定する。【知・技】		
	3	120~121		○重さの単位 kgについて知り、kgを使って重さを表す。【知・技】 ○秤を使って、1kgから2kg程度のいろいろなものの重さを測定する。【知・技】		
	4	122		○1kgの重さをつくったり身のまわりから見つけたりして、1kgの量感を身につける。【態度】		

	5	123		○1kg の量感をもとにして、身のまわりのものの重さを見当づける。 【思判表】 ○適切に秤を選択して測定する。 【知・技】	
	6	124~125		○単位に着目して、800g+600g や 1kg100g~200g の重さの計算の仕方を考える。【思判表】	★コラム「子犬の重さは?」「重いのはだれ?」に取り組む。
②たんいの関係	7	126~127	・問2の④では、計器の目盛りから 10倍や100倍の関係をとらえさせ たり、10倍の100倍は1000倍で あることなどを丁寧に確認したり する。	○重さの単位 tについて知り、tを使 って重さを表す。【知・技】 ○長さ、かさ、重さの単位の関係を整 理し、m(ミリ)と k(キロ)の意味に ついて調べる。【思判表】	★もっと練習 p.147 に進む。
学びのまとめ	8	128~129	・たしかめようの自己評価に基づき、 理解が十分でない内容をふり返ら せる。	○学習内容の理解を確認する。 【知・技】たしかめよう問1・問2 【思判表】たしかめよう問3 【態度】ふりかえろう	★やってみよう取り組む。 ・コラム「体重はかかるかな?」に取 り組ませる。

* ふく習

小単元	時	ページ	学習内容
	1	130~132	○既習事項の確認と持続

★ 学びのサポート

ページ	学習内容
134~137	じゅんび
138~147	もっと練習
148~157	算数しりょう集

※巻末にある「学びのサポート」は少人数学習や自学自習など柔軟な扱いができるように時間配当をしていません。

すべての児童が一律に学習する必要はありません。

11 円と球

目標					指導時数・時期
○ 円や球について、コンパスを使って円を作図する活動や観察によって球を分類する活動を通して、円や球について理解するとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。	(知)	・円や球、およびそれらの中心、半径、直径の意味を理解でき、コンパスを使って円をかいたり、長さを比較したりできる。	(思)	・「まるい形」という感覚を、円、球という数学的な概念に深めることができる。	8時間 2学期制(10月中旬～10月下旬) 3学期制(10月中旬～10月下旬)
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんび	一	116	・1年「いろいろなかたち」 ・2年「長さ」	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	2～3		○吹きこまを回したときの点の軌跡の観察を通して、まるい形について調べていくという単元の課題をつかむ。【態度】	
	2	4～5	・問1で、コンパスの正しい使い方を丁寧に確認する。 ※右ききと左ききのかき方のちがいに注意させる。	○コンパスを使って円をかく。【知・技】 ○円について知り、中心や半径について理解する。【知・技】 ※右ききと左ききのかき方のちがいに注意させる。	※右ききと左ききのかき方のちがいに注意させる。
	3	6		○半径を5cmと決めて円をかく。【知・技】 ○1つの円では、半径をどこにとってもすべて長さが等しいこと、半径の長さによって円の大きさが決まることに気づく。【思判表】	★問4では、実際に校庭に半径が2mや5mの大きな円をかく。
	4	7	・問6で円の形をした紙を用意し、追って中心をみつけさせる。	○半径が3cmの円をかき、直径および直径と半径の関係を理解する。【知・技】 ○円の形をした紙を用意して、中心の見つけ方を考える。【思判表】	★問6では、円の形をした紙を用意し、追って中心をみつけさせる。 ★もっと練習 p.120に進む。
	5	8	・問1では、円をどのように組み合わせた形かを確認しながら、模様をかくにはコンパスの針を方眼のどこにさせばよいかを考えさせる。	○模様を観察し、模様のつくり方を考える。【思判表】	★問3で、いろいろな模様づくりに取り組ませる。
	6	9		○地図を使った長さ調べで、長さを写し取る道具(ディバイダー)としてのコンパスの使い方を理解する。【態度】	
	7	10～11		○ボールや缶などの身のまわりのまるい形をしたものを分類し、球とその性質について理解する。【知・技】	★問2では、球の直径の調べ方を考え見いだす。
学びのまとめ	8	12～13	・たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。 【知・技】たしかめよう問1・問3 【思判表】たしかめよう問2 【態度】ふりかえろう	★やってみよう取り組む。

12 何倍でしょう

目標					指導時数・時期
○ 数量の倍関係について、割合の3つの用法の問題を解決したり、オペレータ(変量)に着目して何倍になるかを考えたりすることを通して、乗除の適用場面や数量の関係について理解を深めるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。	(知)	・数量の倍関係を図に表すことができる。 ・a倍のb倍が(a×b)倍になることが理解できる。	(思)	・問題文から数量の倍関係をよみとり、図に表して問題を解くことができる。 ・オペレータ(変量)に着目し、何倍になるかを考えて問題を解くことができる。	3時間 2学期制：10月下旬～11月上旬 3学期制：10月下旬～11月上旬
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
①何倍でしょう	1	14～15	・問題文の数量と1つ1つ対応させながら、ていねいに段階をおって関係図をかかせる。わからない数は□とすることをおさえる。	○4mの何倍が8mかを関係図に表して、数量の倍関係をとらえる。 【知・技】 ○わり算を適用して、4mの何倍が8mかを求める。【知・技】	★関係図のかき方を身につける。

	2	16~17	<ul style="list-style-type: none"> 問題文をよんで、まず、わからない数が何かを確認して、それを口とすることをおさえる。 問題文の数量と1つ1つ対応させながら、ていねいに段階をおって関係図をかかせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ハケツのかさの8倍が水槽のかさ48Lであることをなどを関係図に表して、数量の倍関係をとらえる。【知・技】 ○何倍かの関係にある2量のうちの一方がわからない場合で、その量を求める。【思判表】 	★自分の力で関係図をかいて解決する。
②何倍になるかを考える	3	18	<ul style="list-style-type: none"> 問題文をよんで、まず、わからない数が何かを確認して、それを口とすることをおさえる。 問題文の数量と1つ1つ対応させながら、ていねいに段階をおって関係図をかかせる。 4mの2倍の3倍は、4mの6倍であることをおさえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○4mの2倍のさらに3倍を求める場面で、順に考えて解いたり、何倍になるかに着目してまとめて考えて解いたりする。【思判表】 	★自分の力で関係図をかいて、2つの方法で解決する。
	4	19	<ul style="list-style-type: none"> 問題文をよんで、まず、わからない数が何かを確認して、それを口とすることをおさえる。 問題文の数量と1つ1つ対応させながら、ていねいに段階をおって関係図をかかせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○2Lの4倍のさらに2倍を求める場面で、何倍になるかに着目してまとめて考える方法で解く。【思判表】 	★自分の力で関係図をかいて、何倍になるかを考えて解決する。

13 計算のじゅんじょ					
目標				指導時数・時期	
○ 計算の順序について、乗法では結合法則が成り立つことを理解し、3要素2段階の問題を1つの式に表して計算できるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。				1時間	
(知) ・乗法の結合法則について理解し、計算できる。				2学期制：11月上旬	
(思) ・乗法の順思考を組み合わせた3要素2段階の問題を、1つの式に表す考え方を説明できる。				3学期制：11月上旬	
(態) ・乗法の結合法則を問題解決の場で活用しようとする。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
	1	20~21	・()を使ったときの計算の順序をていねいに確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ○$3 \times 2 \times 4$ の場面で、乗法の結合法則が成り立つことを理解する。【知・技】 ○()を用いて式に表したり、乗法の結合法則を用いて計算したりする。【思判表】 	★()を使うと1つにかいて、考え方の違いを表現できることに気づく。

14 1けたをかけるかけ算の筆算					
目標					指導時数・時期
○ 1けたをかけるかけ算の筆算について、その仕方を考えたり説明したりすることを通して、(2,3位数)×(1位数)の計算の筆算や簡単な(2位数)×(1位数)の計算の暗算ができるようになるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。					12時間 2学期制：11月上旬～11月下旬 3学期制：11月上旬～11月下旬
(知) ・(2,3位数)×(1位数)の計算の仕方を理解し、(2,3位数)×(1位数)の計算を筆算や暗算できる。					
(思) ・(何十・何百)×(1位数)の計算の仕方を、10や100を単位として考えることができる。 ・(2,3位数)×(1位数)の計算の仕方を、数の仕組みや計算のきまりをもとに考えることができる。					
(態) ・(2,3位数)×(1位数)の計算方法を考えようとする。筆算や暗算のよさに気づく。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんび	—	117	・3年「九九の表とかけ算」	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	22	・導入では、 $10 \times (1\text{位数})$ の計算の仕方を確認する。	○20円のあめ3個の代金や200円のプリン3個の代金を求める場面で、(何十・何百)×(1位数)の立式をして、計算の仕方を考える。【思判表】	★ 20×3 や 200×3 の計算の仕方を説明する。
①何十・何百のかけ算		23	・問1や問2では、お金の模型を使って考えさせる。 ・問3の①③や問4の①③で、計算の仕方を確認する。(その他の小問題は、次時の冒頭で前時の確認問題として扱うことも可)	○(何十・何百)×(1位数)を、10や100を単位にして九九の計算に帰着させて計算する。【知・技】	★もっと練習 p.120 に進む。
②(2けた)×(1けた)の筆算	2	24	・計算棒を使って、計算の仕方をていねいにおさえていく。	○ 12×4 の計算の仕方を考え、 10×4 と 2×4 にわけて計算する。【思判表】	★問1や問2で計算の仕方を説明する。
	3	25	・問5の①や問6の①で、計算の仕方を確認する。(その他の小問題は、本時では省き、第7時で扱うこと也可)	○ 12×4 などの、繰り上がりのない(2位数)×(1位数)を筆算で計算する。【知・技】	★もっと練習 p.120 に進む。
	4	26	・問8の①で計算の仕方を確認する。(その他の小問題は、本時では省き、第7時で扱うこと也可)	○ 24×3 などの、十の位に繰り上がる(2位数)×(1位数)を筆算で計算する。【知・技】	★もっと練習 p.121 に進む。
	5	27	・問10の①で計算の仕方を確認する。(その他の小問題は、本時では省き、第7時で扱うこと也可)	○ 32×4 などの、百の位に繰り上がる(2位数)×(1位数)を筆算で計算する。【知・技】	★もっと練習 p.121 に進む。

	6	28	・問14の①や問15の①④で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、本時では省き、第7時で扱うこと也可)	○43×6などの繰り上がりが2回の(2位数)×(1位数)を、既習をいかして筆算で計算する。【思判表】	★もっと練習 p.121に進む。
●練習	7	29		○学習内容を確実に身につける。	
③(3けた)×(1けた)の筆算	8	30	・問2の①で計算の仕方を確認する。(その他の小問は、本時では省き、第10時で扱うこと也可)	○212×3などの(3位数)×(1位数)の筆算の仕方を、(2位数)×(1位数)の筆算の仕方をもとに考え、計算する。【態度】	
	9	31	・問5の①⑤で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、本時では省き、第10時で扱うこと也可)	○387×4や406×7などの繰り上がりや空位のある(3位数)×(1位数)の筆算の仕方を、既習の筆算の仕方をもとに考え、計算する。【思判表】	★もっと練習 p.122に進む。
●練習	10	32		○学習内容を確実に身につける。	
④暗算	11	33		○積の見当づけを生かして、簡単な(2位数)×(1位数)を暗算で計算する。【知・技】	★もっと練習 p.122に進む。
学びのまとめ	12	34~35	・たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。 【知・技】たしかめよう問1・問2 【思判表】たしかめよう問3 【態度】ふりかえろう	★やってみよう取り組む。

15 式と計算

目 標				指導時数・時期	
○ 加減と乗法の混じった式について、その計算の仕方を考えたり説明したりすることを通して、分配法則について理解するとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う。				2時間 2学期制：11月下旬 3学期制：11月下旬	
(知) ・加減と乗法を組み合わせた4要素の問題の場面で、1組にまとめる考え方について知る。 ・分配法則の意味と計算の順序を理解し、それにしたがって計算することができる。					
(思) ・加減と乗法を組み合わせた4要素の問題の場面で、別々に求める考え方と1組にまとめる考え方の2通りで解くことができる。 ・分配法則を用いた式の表し方について説明することができる。					
(態) ・分配法則に関心をもち、進んで活用しようとする。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	
	1	36~37	・絵や図、具体物を使って、2つの考え方できることをおさえる。	○70円のジュース6本と30円のみかん6個をあわせた代金を求める場面で、別々に考えて解いたり、まとまりを考えて解いたりする。 【思判表】	★2つの考え方できることに気づき、それぞれの方法で解く。
	2	38~39	・絵や図、具体物を使って、2つの考え方できることをおさえる。 ・()を使ったときの計算の順序をていねいに確認する。	○60円の鉛筆5本と20円のキャップ5個をあわせた代金を求める場面で、()を用いて1つの式に表し、分配法則が成り立つことを確かめる。【態度】	★()を使うと1つにかいて、考え方の違いを表現できることに気づく。 ★もっと練習 p.122に進む。

16 分 数

目 標					指導時数・時期
○ 分数について、その意味や表し方を理解し、数直線に分数を表して大小、たし算やひき算について考えたり説明したりすることを通して、分数についての理解を深めるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。					10時間 2学期制：11月下旬~12月中旬 3学期制：11月下旬~12月中旬
(知) ・分数の表記、数としての分数、連続量としての分数などの意味が理解できる。 ・分数の大小の判断や、同分母分数の加減計算をすることができる。					
(思) ・単位分数の何個分という考え方をもとに分数の大きさの表し方を考えることができる。 ・同分母分数の加減計算の仕方について考え、説明することができる。					
(態) ・端数部分などを表すのに分数を用いることに関心をもち、よさに気づいて進んで生活や学習に活用しようとする。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんび	一	117	・2年「分数」	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	40	・導入では、2年生のときに半分の大きさを1/2と表したことを確認する。	○1mを単位にして測ったときの余りの長さの表し方を考えることを通して、単元の課題をつかむ。 【態度】	★もっと練習 p.123に進む。
①あまりの大きさの表し方		41	・問1では、実際に1mのテープを折る活動を行い、1mの1/2や1/3をつくらせる。	○テープや図をみて、1mの何分の1かで大きさを表す。【知・技】	
	2	42	・問1は、第1時で使った1mの1/3のテープを使って展開する。	○1mの1/3の大きさを1/3m、1/3mの2個分を2/3mと表すことを理解する。【知・技】	★もっと練習 p.123に進む。

	3	43		○1Lまでの7目盛りまで水がはいったかさ(液量)について、10等分した7個分であることに気づき分数で表す。【思判表】 ○1Lや1cmを何等分かした量を分数で表す。【知・技】	★もっと練習 p.124に進む。
②分数の大きさ	4	44	・問1では、第1時と同様の1mのテープを用意しておき、まず、それと線分図を対応させて1の大きさを具体的にとらえさせる。	○1の大きさを表す線分図を等分したものみて、分数を抽象数としてとらえ、単位分数および1との関係について考える。【思判表】	★もっと練習 p.124に進む。
	5	45	・問1では、前時の学習をふりかえり、線分図を使って $1/6$ は1を6等分した大きさであることをおさえる。	○ $1/6, 3/6, 6/6, 8/6$ を数直線に表すことを通して、1までの目盛りの数と分母との関係に気づく。【思判表】 ○1に等しい分数があることを知る。【知・技】	★もっと練習 p.124に進む。
	6	46		○ $3/8$ と $5/8$ など、同分母分数の大小や相等の関係を理解する。【知・技】	★コラム「分母のちから分数の大きさくらべ」に取り組む。 ★もっと練習 p.125に進む。
③分数のたし算・ひき算	7	47	・問4の①で計算の仕方を確認する。(その他の小問は、次時の冒頭で前時の確認問題として扱うことも可)	○ $2/5+1/5$ など、同分母分数のたし算の仕方を考え、計算する。【思判表】	★自分の力で計算の仕方を説明する。 ★もっと練習 p.125に進む。
	8	48	・問7の①で計算の仕方を確認する。(その他の小問は、次時の冒頭で前時の確認問題として扱うことも可)	○ $3/5-1/5$ など、同分母分数のひき算の仕方を、たし算のときをもとにして考え、計算する。【態度】	★自分の力で計算の仕方を説明する。 ★もっと練習 p.125に進む。
●練習 学びのまとめ	9	49		○学習内容を確実に身につける。	
	10	50~51	・たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。 【知・技】たしかめよう問1~問3 【思判表】たしかめよう問4 【態度】ふりかえろう	★やってみよう取り組む。

活 わくわく算数ひろば			
小単元	時	ページ	学習内容
思 間の数	1	52	○1列に並んだものの数と順序との関係を、図を使って考えることができる。
	2	53	○1列に並んだものの数とその間隔との関係を、図を使って考えることができる。
●算数ラボ	3	54~55	○オリンピックマークづくりを通して、身のまわりのものを数学的にとらえてみることのおもしろさを知る。

* ふく習			
小単元	時	ページ	学習内容
	1	56~57	○既習事項の確認と持続

17 三角形					
目標					指導時数・時期
○ 二等辺三角形や正三角形について、構成を通してその分類や意味を理解し、作図の方法や角の大きさを考えたり調べたりすることを通して、平面図形の性質やその見方・考え方をとらえさせるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。					8時間 2学期制：1月中旬～1月下旬 3学期制：1月中旬～1月下旬
(知) ・二等辺三角形、正三角形の定義や性質を理解し、コンパスを使って、二等辺三角形、正三角形をかくことができる。 (思) ・辺の長さによって三角形を分類できる。 ・定義をもとに、二等辺三角形や正三角形について説明できる。 (態) ・身のまわりから三角形をさがし、それを分類しようとする。					
小単元		時	ページ	補充コース	基本コース
じゅんび		—	118	・2年「三角形と四角形」 ・3年「円と球」	○既習事項の理解を確かめる。
(課題設定)		1	58	・導入では、三角形の定義や、辺の数、頂点の数を確認する。	○色棒でいろいろな三角形を作ることを通して、単元の課題をつかむ。 【態度】 ○辺の長さに着目して、二等辺三角形や正三角形を弁別する。【知・技】
①二等辺三角形と正三角形			59~60		
		2	61	・問1では、まず、ものさしだけでの作図に取り組ませ、それだと何が難しいかを明らかにさせる。	○二等辺三角形と正三角形を作図する。【知・技】 ★作図の仕方を説明する。
		3	62		○円の半径の性質を利用すると、二等辺三角形や正三角形をかくことができることを理解する。 【思判表】 ★二等辺三角形や正三角形になるわけを説明する。 ★もっと練習 p.126に進む。

	4	63	・問1では、まず、折り紙を折らせて二等辺三角形や正三角形をつくり、そうなっていることを確かめる。なぜそうなるのかは、大きさや形が違う紙でもつくれるかを話しあせながら考えさせる。実際に別の紙を折って確かめてもよい。	○色紙で二等辺三角形や正三角形をつくる方法を考える。【態度】	★二等辺三角形や正三角形になるわけを説明する。
②角	5	64~65	・問1では、まず、2年生のときに本やノートのかどの形を調べて、直角を学習したことを確認する。	○角について知り、二等辺三角形や正三角形の角の大きさについての性質を理解する。【知・技】	
	6	66	・問4で二等辺三角形や正三角形であることをたしかめさせる。	○三角定規の角を調べる活動を通して、大きさの等しい角をみつけたり、角の大きさは辺の長さによらないことを理解したりする。【知・技】	
	7	67		○正三角形や二等辺三角形は平面に敷き詰めることができるなどを知る。【知・技】 ○敷き詰め模様の中に、いろいろな形があることに気づく。【態度】	★問1では、並べるまえに、隙間なく並べられるか（敷き詰められるか）の見通しを立てる。
学びのまとめ	8	68~69	・たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。 【知・技】たしかめよう問1・問2 【思判表】たしかめよう問3 【態度】ふりかえろう	★やってみよう取り組む。

18 小 数

目 標				指導時数・時期
○ 小数について、その表し方や数の仕組みを考えたり説明したりすることを通して、小数の意味やよさを理解するとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。				10時間 2学期制：1月下旬～2月中旬 3学期制：1月下旬～2月中旬
(知) ・小数の意味、表し方、大小関係を理解し、小数を用いて端数部分を表現したり、数直線上に小数を表示することができる。1/10の位までの小数の加減計算ができる。				
(思) ・小数の相対的な見方を活用して、小数の加減計算の仕方を考えることができる。				
(態) ・小数のよさに気づき、進んでこれを用いようとする。				
小単元	時	ページ	補充コース	発展コース
じゅんび	—	118	・3年「分数」	○既習事項の理解を確かめる。
(課題設定)	1	70	・導入では、1Lを10等分した3個分を3/10と表せることを確認する。	○3/10Lの別の表し方を考えるという単元の課題をつかむ。【態度】 ○小数について知り、小数を用いた量の表し方を理解する。【知・技】
①あまりの大きさの表し方	2	71	・問5では、1cm=10mm, 1L=10dLであることを確認する。	★もっと練習 p.126に進む。
	72~73		・問5では、1cm=10mm, 1L=10dLであることを確認する。	○5cm4mmの長さを小数で5.4cmと表せることを知り、小数の意味や表し方についての理解を深める。【知・技】 ○身のまわりから小数を見つける。【態度】
②小数の大きさ	3	74~75		★もっと練習 p.126に進む。
	4	76		○0.2と4/10など、小数と分数で大小を比べる。 【知・技】
③小数のたし算・ひき算	5	77	・問3の①や問4の①③で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、次時の冒頭で前時の確認問題として扱うことも可)	○0.6+0.2など、小数のたし算の計算の仕方を考える。【思判表】 ★もっと練習 p.127に進む。
	6	78	・問7の①や問8の①③で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、次時の冒頭で前時の確認問題として扱うことも可)	○0.8-0.2など、小数のひき算の計算の仕方を、たし算のときをもとに考える。【態度】 ★もっと練習 p.128に進む。
	7	79	・問3の①や問4の①で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、次時の冒頭で前時の確認問題として扱うことも可)	○5.7+3.2や5.7-3.2を筆算で計算する。【知・技】 ★もっと練習 p.128に進む。
	8	80	・問6の①③⑤⑦で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、次時の冒頭で前時の確認問題として扱うことも可)	○7+5.5, 1.2+2.8, 5-2.7, 3.6-2.8など、空位のある場合の筆算をする。【思判表】 ★もっと練習 p.128に進む。
●練習	9	81		○学習内容を確実に身につける。

学びのまとめ	10	82~83	・たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。 【知・技】たしかめよう問1~問3 【思判表】たしかめよう問4 【態度】ふりかえろう	★やってみよう取り組む。
--------	----	-------	-------------------------------------	---	--------------

* ふく習

小単元	時	ページ	学習内容
	1	84~85	○既習事項の確認と持続

19 2けたをかけるかけ算の筆算

目標

小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース	指導時数・時期
じゅんび	—	119	・3年「1けたをかけるかけ算の筆算」 ・3年「たし算とひき算の筆算」	○既習事項の理解を確かめる。		6時間 2学期制：2月中旬～2月下旬 3学期制：2月中旬～2月下旬
(課題設定) ①何十をかけるかけ算	1	86	・導入では、 23×3 で1桁をかけるかけ算の筆算の仕方を確認する。	○ 23×30 と立式して、既習のかけ算の仕方をもとに計算の仕方を考える。【思判表】	★もっと練習 p.129に進む。	
		87	・問3の①や問4の①で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、次時の冒頭で前時の確認問題として扱うことも可)	○(2位数)×(何十)の計算をする。【知・技】		
②(2けた)×(2けた)の筆算	2	88	・問2の①で計算の仕方を確認する。(その他の小問は、次時の冒頭で前時の確認問題として扱うことも可)	○ 23×34 など、(2位数)×(2位数)で部分積が2桁の場合を、筆算で計算する。【知・技】	★もっと練習 p.129に進む。 ★筆算のしかたを自分の言葉で説明できるようにする。	
	3	89	・問5の①や問6の①③で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、次時の冒頭で前時の確認問題として扱うことも可)	○ 58×34 や 20×48 など、(2位数)×(2位数)で部分積が3桁の場合を、筆算で計算する。【知・技】	★もっと練習 p.129に進む。	
●練習	4	90		○学習内容を確実に身につける。		
③(3けた)×(2けた)の筆算	5	91		○ 248×32 など、(3位数)×(2位数)の筆算の仕方を、(2位数)×(2位数)の筆算の仕方をもとに考え、計算する。【態度】	★(4桁)×(2桁)の筆算の問題をつくり、解きあう。	
学びのまとめ	6	92~93	・たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。 【知・技】たしかめよう問1~問3 【態度】たしかめよう問4 ふりかえろう	★やってみよう取り組む。	

20 □を使った式

目標

小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース	指導時数・時期
じゅんび	—	119	・3年「図を使って考え方」	○既習事項の理解を確かめる。		4時間 2学期制：2月下旬～3月上旬 3学期制：2月下旬～3月上旬
(課題設定)	1	94		○わからない数を□として、 $\square+4$ や $20-\square$ という式に表す。【知・技】		
		95		○□の式に表すことを通して、単元の課題をつかむ。【態度】		
	2	96	・線分図は、問題文と対応させてていねいに指導する。	○加法・減法の場面で、 $\square+4=18$ や $20-\square=14$ という式に表し、□にあてはまる数の求め方を考える。【思判表】	★問題場面を、□を使った式や線分図に表して考える。 ★似たような問題をつくり、□を使って式に表して、□にあてはまる数をみつける。	
	3	97	・線分図は、問題文と対応させてていねいに指導する。	○乗法・除法の場面で、 $\square \times 3=36$ や $32 \div \square=8$ という式に表し、□にあてはまる数の求め方を考える。【態度】	★問題場面を、□を使った式や線分図に表して考える。 ★似たような問題をつくり、□を使って式に表して、□にあてはまる数をみつける。	

	4	98~99		○算数の問題をつくり、その問題文にあう図や式を考える。【思判表】	★問2で□とする数量を変えて問題文をつくり、図や式に表す。
--	---	-------	--	----------------------------------	-------------------------------

● そろばん

目 標

- そろばんについて、そろばんを用いた数の表し方を理解し、簡単な加減の計算を通して、そろばんの構造やよきに気づくとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う。
- (知) ・そろばんによる数の表し方や加法及び減法の計算の仕方を知り、そろばんを用いて簡単な加法及び減法の計算ができる。
- (思) ・そろばんの構造をとらえ、簡単な加法及び減法の計算の仕方や、数の相対的な見方を用いた計算の仕方を考えることができる。
- (態) ・そろばんを用いた加法および減法の計算に進んで取り組もうとする。

指導時数・時期

2時間
2学期制：3月上旬
3学期制：3月上旬

小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
	1	100~101		○そろばんについて知り、そろばんにおかれた数のよみ方や数の入れ方とはらい方を理解する。 【態度】 ○繰り上がりや繰り下がりのない加減で、5だまの合成・分解の起こらない場合の計算をする。【知・技】	
	2	102~103		○5だまの合成・分解の起こる場合の加減の計算をする。【知・技】	

活 わくわく算数ひろば

小単元	時	ページ	学習内容
●買えますか？買えませんか？	1	104~105	○1つ100円玉何枚で買えるか買えないかの判断をもとに、いくつかの品物が何百円で買えるか買えないかを判断することができる。
●みらいへのつばさ	2	106~107	○長文などの資料から必要な情報を選択し、時刻と時間についての問題を解決できる。
	3	108~109	○1日の生活の課題を話しあい、課題解決に向けた計画を考える。

* もうすぐ4年生(3年のふく習)

小単元	時	ページ	学習内容
	1	110~111	
	2	112~113	○3年生の学習内容の確認と持続
	3	114	

★ 学びのサポート

ページ	学習内容
116~119	・じゅんび
120~129	・もっと練習
130~139	・算数しりょう集

※巻末にある「学びのサポート」は、少人数学習や自学自習など柔軟な扱いができるように時間配当をしていません。

すべての児童が一律に学習する必要はありません。